

はるかな尾瀬

2009.03 vol.8
(財)尾瀬保護財団



尾瀬のミニ観察(4)

ーリュウキンカー
(花期：5月中旬～7月上旬)

この花には人間には見えない模様がある。
花は直径3cm前後。花びらは、私たちには金一色に輝いて見える。しかし、紫外線だけを透過するフィルターをかけて撮影すると、下の写真のように、花の中心部は紫外線を反射せず黒く写る。紫外線を色として識別できる昆虫は、この模様で餌のある花の中心部を知り、効率よく餌が食べられるのだ。尾瀬で実物とこの写真とを比べて見よう。花は人間のためになく昆虫のために咲いているのだ、と実感できるはずだ！ (田中 肇)



「今月の表紙」



尾瀬ヶ原と至仏山

(第10回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト)
入選作品ー撮影 渡辺津る江さん

目次

- 01 副理事長あいさつ
尾瀬国立公園の新たな課題について
- 02 イベント情報
- 03 リレーエッセイ
尾瀬学習
群馬県立尾瀬高等学校 教諭 松井孝夫
- 05 エッセイ 尾瀬好日
「帝釈山の妖精」
福島県自然保護指導員 菅家俊史
「先輩と燧ヶ岳」
尾瀬ボランティア 斉藤 敦
- 07 連載コラム
「与えられた地域で、与えられたものを」
取材協力 佐藤 正
「尾瀬の先輩方を追いながら…」
取材協力 弥四郎小屋
- 09 トピックスTOPIX
第10回尾瀬フォーラムを開催しました
冬期調査を実施しました
- 10 平成21年シーズンの
尾瀬についてのお知らせ
- 11 尾瀬ボランティア情報
- 12 尾瀬保護財団からのお知らせ
寄付のお願い
「友の会」コーナー

尾瀬国立公園の 新たな課題について

財団法人尾瀬保護財団

副理事長 泉田 裕彦



平成19年8月30日の尾瀬国立公園誕生にあわせて、尾瀬国立公園ロゴマークの公募・決定、記念式典、JR上野駅での記念イベント、国際シンポジウム、尾瀬のお花チェックラリー等、2シーズンに渡る尾瀬国立公園記念事業の様々なイベントを滞りなく終了することができ、関係各位に厚くお礼申し上げます。また、イベントにはたくさんの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。

尾瀬の自然環境のすばらしさと自然保護の取組みについては、昨年7月に新潟県魚沼市で開催しました国際シンポジウムにおいて海外の自然公園関係者の方々からも賞賛をいただいたところです。

貴重な自然の宝庫、それを守るための世界有数規模の木道設備、入山者への利用指導、そして尾瀬を守る関係者の熱意など、世界的にも高い水準にあると評価いただきましたが、海外に向けての情報発信等、解決すべき課題もあり、今後、対応を進めていきたいと考えています。

また、今シーズン、利用者にとって安全で快適な、質の高い充実した自然体験を提供するため、尾瀬認定ガイドの認定講習が順次実施され、秋には初め

での認定ガイドが誕生する予定です。

尾瀬には数百種類ともいわれる花々が咲き、季節や場所により咲く花も変わります。また、なぜ尾瀬ヶ原が出来たか、至仏山や燧ヶ岳はどのようにしてできたか。どのようにして尾瀬の自然は守られてきたのか。これらを全て理解して尾瀬に向かうことはなかなかできません。

是非、尾瀬認定ガイドと一緒に歩き、さまざまな発見、体験をしていただきたいと思っています。

ところで、平成20年度尾瀬国立公園入山者総数は約38万人と前年並みでしたが、最も入山者数が多かった入山口は群馬県鳩待峠口の約20万6千人で、全体の54%を占め、相変わらず特定の入山口へ集中する傾向が見られます。

新潟県は、環境への負荷を少なくする観点から、入山口の分散を図るため、新潟県側の尾瀬ルート「魚沼から行く尾瀬」の周知に努めています。同ルートは遊覧船を利用し、ブナの原生林などの自然の豊かな地域を通るもので、今年度には定期船の増便が予定されており、NHK大河ドラマ「天地人」の直江兼続のふるさとや、魚沼コシヒカリ、山菜をはじめとする豊かな食の魅力を組み合わせ、新潟県側ルート、公共交通機関の利用を積極的にPRしていきたいと考えています。

さて、地球温暖化による影響については、残念ながら尾瀬においても例外ではないようです。かつて尾瀬にいなかったニホンジカが急増し、ニッコウキスゲなどの貴重な植物を食べ荒らし、低温の山岳地に自生するオゼソウなどの氷河期残存植物が生育環境の激変にさらされる一方で、南方系の蝶・ツマグロヒョウモンが尾瀬で確認されています。

さらに、温暖化に伴う気温上昇や降水日の減少は池塘や湿原の乾燥化を

進め、尾瀬の在来動植物の生息環境が脅かされ、乾燥に強い植物の進入なども懸念されています。

尾瀬では、貴重な自然環境を保全しつつ利用するため、早くからマイカー規制や低公害バスの導入に取り組みとともに、山小屋や公衆トイレの排水処理のための太陽光発電システムの導入、尾瀬の木道をリサイクルした紙の使用、風で織るハンドタオル（生産を100%風力発電でまかなう）の販売など、二酸化炭素の排出を減らす関係各位の自主的な取り組みも進んでいます。

また、昨年開催された自然公園ふれあい全国大会では、シャトルバス利用者へのカーボン・オフセット募金、地域で集められた廃食油を燃料としたBDFバス運行、グリーン電力購入など、新たな取組みが行なわれました。

今後、生態系の状況の的確な把握、野生動物対策、環境保全等への取り組みを進めるとともに、二酸化炭素を減らす仕組みづくりに取り組んでいくことも大切と考えています。

環境に配慮しながら、多くの人に尾瀬へ来ていただいて、尾瀬のすばらしさを共有していただき、そして、広く自然環境、地球環境を考えていただきたいと思っています。

尾瀬は「自然保護の原点」といわれていますが、これまでの活動のほかに、世界への情報発信、地球温暖化への対応等、全国のみならず世界に誇れる国立公園となるよう取り組みを進めていきたいと考えていますので、今後とも皆様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

イベント情報

国立公園フェアに出展します

国立公園フェアに尾瀬保護財団ブースを作り、尾瀬国立公園に関連した書籍やグッズの販売をします。

○開催日 平成21年4月29日(水)〔昭和の日〕

○開催場所 国民公園「新宿御苑」

〔東京都新宿区内藤町11〕

第13回NHK「わたしの尾瀬」写真展

※渋谷展

○開催期間

平成21年5月9日(土)～24日(日)

午前10時～午後6時(最終日は午後4時まで)

※18日(月)は休館日

○会場 NHKスタジオパーク・パークギャラリー

〔東京都渋谷区神南町2-2-11〕

○入場無料(ただし、スタジオパーク入場料が必要)

■魚沼展

○開催期間

平成21年5月30日(土)～6月7日(日)

午前9時～午後6時

○会場 魚沼市地域振興センター2階

〔新潟県魚沼市吉田1-1-48〕

○入場無料

平居久美子写真展「水色の尾瀬」

○開催期間

平成21年5月6日(水)～18日(月)

午前10時30分～午後6時30分

(最終日は午後4時まで) ※12日(火)は休館日

○会場 ペンタックスフォーラム

〔東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB〕

○入場無料

リレーエッセイ

尾瀬学習

松井 孝夫

尾瀬高校には全国唯一の「自然環境科」があります。「理数科」という専門学科に属し、生徒の個性や能力に応じた「探究的な学習」を通して、「柔軟な思考力や創造性」や「自ら学び、自ら考える力」を育成しています。

「探究的な学習」の中心は、多様な生態系をもった自然の宝庫、尾瀬国立公園での「体験学習（尾瀬学習）」です。

尾瀬高校には、「総合尾瀬」「環境実践」「環境測定」「野外の活動」「環境情報処理」などの独自の環境専門科目があり、関連した様々な校外実習があります。

1年生の校外実習では、6月に尾瀬ヶ原、9月に尾瀬沼を訪れます。貴重な尾瀬での学習を効果的に行うために、事前学習（自然観察）として4月に片品溪谷（吹割溪谷）、5月に武尊山（群馬県企業局水源の森）での校外実習を行

い、まず身近な自然についての理解を深めます。尾瀬の特徴を理解しやすくするためです。また、事後学習として、10月と2月に再び武尊山を訪れ、尾瀬の自然との共通点や相違点、季節による環境の変化について学びます。さらに、前橋市の「敷島公園」や「ぐんま昆虫の森」、「群馬県立自然史博物館」、「ぐんま天文台」等での校外実習を通して、幅広い自然学習を行います。校外実習は、少人数のグループに分かれて行い、それぞれに大学教授等外部講師と教員が付いて、より深い学習が行えるようにしています。



▲外部講師の指導による尾瀬ヶ原の植生調査

2年生の校外実習は、水質測定や動植物調査などの「自然環境調査」を中心としています。尾瀬では尾瀬ヶ原の他、至仏山やアヤマ平での調査活動も行います。また1年生と同様に片品溪谷や武尊山でも行います。2年生の調査活動では、目で見ただけでは気づかない自然の仕組みを、各自が「データ」を収集し、整理・分析することで、新たな発見ができ、より一層深く理解することを目指しています。

3年生の校外実習は、「様々な人との交流」がテーマです。生徒の卒業後の進路は様々で、環境関連の進学・職業とは限りません。しかし、それぞれのライフワークとして、自分と関わるすべての人に「尾瀬学習」で学んだことを伝え、環境に配慮した行動を啓発してほしいと願っています。そのためには、多様な価値観の人と理解し合える「高いコミュニケーション能力」が必要です。そこで4月に、インタープリテーション（自然解説）についてプロの指導を受けました。ここでは、「ホスピタリティ（心のこもったもてなし）」「コミュニケーション」「エンターテイメント」がキーワードとなります。そしてその実践として、片品溪谷で入学したばかりの尾瀬高校の1年生を、尾瀬ヶ原では横浜の小學生を、武尊山では地元の中学生を案内し、冬

には雪上での「卒業試験」として、1年生のときに指導していただいた外部講師への自然解説を行います。



▲小学生と交流する尾瀬高校生徒

このような3年間の学習の過程で、様々な問題を発見し、解決を図り、結論を得るというサイクルを何度も繰り返し、探究する能力を磨きます。この一連の「尾瀬学習」を通して、自らの体験から学んだことを、わかりやすく人に伝えることが、自然環境科の生徒・卒業生の使命（ミッション）であると考えています。

尾瀬高校では、発展的な学習（理科部などの

課外活動）として、地域の自然をモニタリングすることも継続的に行っています。武尊山の群馬県企業局水源の森の通年にわたる動植物調査や、毎週欠かさず実施している片品川の水質調査、そして尾瀬国立公園での水質調査、植生調査、ニホンジカの分布調査などです。



▲ライトセンサスによる尾瀬ヶ原のニホンジカ分布調査

これらの調査は、信頼できるデータであること、一定の条件で継続して実施することが大切であり、そのためには大学教授らの専門研究者の指導や、生徒・職員を含めた学校の体制づくりが重要です。そして、なにより、調査地の山

小屋等各施設の方々や、そこを利用するハイカーなど、多くの関係者の方々のご理解やご協力を得ることが大切であると感じています。

尾瀬高校で収集した「自然情報」は、尾瀬高校だけのものではなく、関係する多くの方で共有すべき財産として、活用していただきたいと思えます。

「調査中」の黄色の旗、緑の腕章をつけた尾瀬高校の生徒を見かけましたら、是非、声をかけてください。そして、交流の輪を広げていただければ幸いです。

筆者紹介

松井 孝夫（まつい たかお）

群馬県立尾瀬高等学校 自然環境科 教諭

尾瀬をはじめ地域の豊かで多様な自然をフィールドに、生徒たちが主体となり、自然観察、環境調査・研究、そして社会への情報発信活動を実践することで、自然環境に関わる基礎的な知識を習得し、生徒一人一人の個性が最大限に発揮できるような環境教育に取り組んでいる。

前号の小金澤正昭氏（宇都宮大学農学部教授）よりリレーしました。

「帝釈山の妖精」

一昨年、尾瀬国立公園の拡張域となった田代山・帝釈山・台倉高山を紹介します。

田代・帝釈山地域は、古く麓の村人により「田代大明神」が祀られ、集落ごとの「雨乞い」などの神事が行われ続け、明治末には「弘法大師」を祀る等、神聖な地として崇められた信仰の山です。村人達が残した「帝釈山」「鳥居岩」「天狗の庭」「弘法池」など神仏にまつわる地名と山伝説に先人の畏怖・畏敬の念が強く刻まれ、特に木賊ルート（最古の歩道）から雨と霧に包まれた山頂を歩くとき、そのあまりの神秘さに先人達と神との出会いを偲ばせます。

台倉高山は、田代く帝釈山くと続く帝釈山脈を構成する山で、亜高山性樹林の中をオサバグサと小湿原に導かれて山頂に立つと、燧ヶ岳が眼前に迫り、尾瀬が間近であることを実感します。かつてこの山脈の尾根伝い（尾瀬沼く田代山）に間道が開かれ栃木県との往来に利用されたとのこと。かの平野長蔵翁もここを縦走して、田代山麓の湯ノ花温泉で湯治をなさった

話も伝わっています。残念ながら現在の台倉高山く尾瀬沼間道は、チシマザサに閉ざされ全く通行不能で、先人達の足跡も点でしか伺うことができません。唯一、帝釈・田代両山頂に残る古い標識（写真1）がかつての面影を残し、オサバグサ群落も、田代く黒岩山北側斜面に繋がっており、オサバグサによっても尾瀬と繋がっていることになせ

か感無量となります。不思議なことに尾根を挟む栃木県側では、オサバグサを見ることはできません。



▲写真1 帝釈山～田代山稜線に残る古い標識

この地域の動植物の紹介は省略しますが、田代山頂には棚田状に高層湿原が広がり、近隣に高山が皆無であることから奇異で孤高の様相を呈しています（写真2）。湿原内には希少植物も多く、その姿は尾瀬地域の同類植物と比べ、背丈が低くまさに可憐です。本格的植物調査は行われた形跡が無く、固有種発見の楽しみを持

たせる地域でもありません。

さて、パトロール中の私を見つけてくれた人懐っこい円らな瞳の「帝釈山の妖精」を皆さんに紹介します（写真3）。

この地域も他地域と同様に利用上の問題を多数抱えています。利便性を考えるのではなく、「山の威厳」を守ると、先人達と同様な山への「畏敬の念」を呼び起こすことを主として保護活動が続いています。皆さんのご意見、多数お寄せ下さい。



▲写真3 「帝釈山の妖精」オコジョ（冬毛）



▲写真2 空から見た田代山湿原

尾瀬好日

尾瀬ボランティア
斉藤 敦 (No.8882)

「先輩と燧ヶ岳」

10年ほど前、晩秋の朝、今にも雨が降り出しそうな曇り空の下、少しガサツだけれど「気の合う先輩と、燧ヶ岳への温泉小屋道を登り始め、一時間半も登っただろうか、老夫婦が登山道脇で休んでいた。」

「頂上はまだ先ですか」と聞かれ「まだ半道中ですね」と答えた。お疲れの様子だったので、「天気も悪いので、無理されない方が良いでしょう」と言っと「もう少し休んで引き返します」とのこと。挨拶をして私達は先に進んだ。10分も歩き森林限界を超えると、信じられない早さで天気が好転し、眼下に尾瀬ヶ原が素晴らしい広さで姿を現した。その景色を見た瞬間に、先輩が「さっきの夫婦に、これを見せなければ」と呟いて、今登ってきた登山道を駆け下って行った、呆気に取られながらも私も後に付いた。「せっかく此処まで来たのだから、もう少し登りましょう」と老夫婦を尾瀬ヶ原が一望できる所まで案内し「本当に此処まで来て良かった。この景色に感激しました」と感謝の言葉をもら

った。

頂上に着いて「柄にも無く親切をしましたね」と言っと「馬鹿鹿」と言っ返事が返ってきた。先輩の満足な横顔が印象的だった。先輩は、この翌年、癌で他界された。この頃から私の尾瀬通いが多くなった。



▲先輩に撮ってもらったの記念写真

数年前から尾瀬のボランティアに参加している。昨年は、早春の尾瀬ヶ原でのツキノワグマ生息調査、尾瀬の入山口での入山啓発活動、「お話ボランティア」と称する尾瀬ヶ原での自然解説や、至仏山の高山植物保護柵の融雪後の設置・降雪前の撤去、湿原復元作業、登山道のゴミ拾いなどで20日ほど尾瀬に入った。

尾瀬の入山者には、高山植物を楽しむに來る方が多い。尾瀬ボランティアの帽子とボランティア証を身に付けていると、植物図鑑を片手に

花の名前を質問されることも多い。

私自身も常に勉強が必要なので、尾瀬で見つけた花は写真を撮って家に帰り、植物図鑑で名前（漢字名を調べると覚えやすい）、特徴や花言葉などを調べ整理して、「お話ボランティア」のネタにする。それを繰り返していると、トンボや蝶など昆虫、自然現象や自然保護など興味広がる、知れば知るほど面白くなって行く。間もなく尾瀬のシーズンの幕開けとなるが、燧ヶ岳での先輩の登山者への優しさに負けないよう、尾瀬の素晴らしさ、自然の大切さや、尾瀬入山時のマナーを、尾瀬に訪れる沢山の登山者に伝え、「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」を実践できたらと思う。



▲燧ヶ岳ゴミ拾いボランティア活動後の写真
(筆者は前列中央) (H20.9.15)

新潟県の南東部に位置する魚沼市は、その一部が尾瀬国立公園と越後三山只見国立公園に指定され、荒々しい山々と、豊かに流れる川に抱かれるように位置しています。こうした大自然の中で、猟師の家庭に生まれ育ち、40年以上も地元で猟を続けている佐藤正さんにお話を伺いました。

生

まれた時から猟師

「私は昭和23年に湯之谷村（現在の魚沼市）に生まれました。我が家は5代にわたって猟師で、古くは槍でクマ猟をしていたようです。私は小さな頃から祖父や父の猟に連れて行かれ、猟のあとは我が家がエモノを分けたり酒を飲む場所となりました。食料の乏しい時代でしたから、兄弟と獲れたエモノを食べるのが楽しみでした。生まれた時から日常の中に猟がありました」と佐藤さん。そんな佐藤さんが21歳で銃を持ったのも自然の成り行きだったようです。

「父は猟に関しては妥協を許さぬ厳しい人でした。ノウサギやヤマドリは肉を傷めないように頭を撃つのですが、最初の頃はそれが分からずにエモノの数ばかりを気にしていました。でも持つて帰ったエモノを父が見るとそのことを指摘され、随分と怒られたことがあります。「撃ち殺すのではなく、しのび殺せ」と。以来、忍び歩く方法を考えたり工夫

したりしました。本当に優れた猟師は銃ではなく、エモノを仕留めるのが上手いのだと思います」と猟が人生に染みこんだ佐藤さんならではの話でした。



▲仕留めたツキノワグマと佐藤さん

泊

まり込みのクマ猟

猟期には最長で2週間も山に入るという佐藤さん。小屋に泊まったのクマ猟の話伺いました。

「湯之谷村では昔から少人数で猟を行っており、山の所々に仲間で作った小屋があります。昔はススキで作りましたが、寝るときには布団にナイロンを掛け、雪が積もって布団が濡れるのをふせぎました。食料は米と味噌と漬物だけ。仕留めたエモノは全て自宅まで持つて帰りま

笑顔を絶やさずに話す佐藤さん。猟ではエモノを仕留めるだけでなく、面白い経験もあるという。「遠い斜面を勢いよく走るクマを見つけたのですが、よく見るとイヌワシに追いかけて回されているのが分かる



▲ススキで作った小屋

りました。クマも猛禽類は怖いようです。またある時は、撃たれた瀕死のクマに2頭の子グマがいて、1頭は母グマに付き添って斜面を登り始め、もう1頭は諦めたようすでその場から逃げてしまいました。兄弟でどちらが危険を冒して母を看取るのかを相談したと思うのですが、今でも不思議です」とクマ猟での体験話は尽きることはない佐藤さんでした。

目

に見えない変化

クマ猟を通じて四季や自然の変化を感じる佐藤さん。そんな佐藤さんが最近気になっていることがあると

いう。

「私は地元で15歳から猟を始め、毎年クマを仕留めています。天から与えられ、先代から受け継いだ地域で、与えられたエモノを獲るためにも環境の変化には敏感だし、猟師は「自然の番人」だと思います。最近では環境の変化による動物の絶滅や、逆に増加による農林業被害があり、人の手で保護して増やしたり、狩猟で減らしたりという対策を行っています。動物は自然に長期的なサイクルで増減するものだと思います。それよりも私が気になるのは、人が容易に近づけない山奥で、病気を持ったような動物を見かけた事です。大陸から運ばれる汚染物や酸性雪などが、私にも見えない形で地元の山に現れているのかもしれない」と真剣な顔で話す佐藤さん。今後のことをお伺いすると、「話すことは苦手ですが、私が自然から学んだことを伝えていきたい」と、自然の番人としての意気込みを話してくれました。



▲「自然から学んだことを伝えたい」と佐藤さん

燧ヶ岳の麓に位置し、古くは、富士見峠から東電小屋への物資運搬の要所としても賑わっていた見晴。そんな見晴で尾瀬の自然と共に弥四郎小屋を営んできた橋良一さんに、お話を伺いました。

弥四郎爺とわたし

「私の祖父の弥四郎は、14歳のころになると、檜枝岐村から尾瀬に入り、猟や魚釣りをしていました。当時は獲物がたくさん捕れてよほど楽しかったのですが、14日間という約束で独りで尾瀬に入ったのですが、期間を過ぎても村に戻って来なかったため、家族が心配して尾瀬まで迎えにきたこともあったようです。猟や魚釣りが好きだったことや、平野長英さんの勧めもあり、昭和7年に弥四郎小屋を始めました。祖父は昭和28年に亡くなりましたが、私は祖父が亡くなった翌日に生まれました。祖父との不思議なつながりを感じます」と、橋さんは弥四郎さんにまつわる思い出から話を始めてくれました。

「私は小学校にあがると、夏休みには6軒の山小屋があるので、子どもも多く、遊ぶのが忙しかったです。そのため、夏休みの絵日記などの宿題がたまることも多く、子どもたち

どうして協力し合いながら宿題をやったことを覚えていきます」と、子どもたちならではの微笑ましい話をしてくれました。



▲弥四郎小屋と燧ヶ岳（昭和31年）



▶小屋前で父親に抱かれる橋さん（郵便受けなどは現在も残る）

尾

「私が本格的に山小屋で働き始めた

たのは昭和51年。当時は母親と二人三脚できりもりしていました。山小屋での仕事はわからないことも多く、母親にいろいろなことを教わりました。また、他の山小屋主さんなど、尾瀬に長い間関わってきた先輩方に、尾瀬や山の「いろは」を教えてくださいました。しかし、まだまだ先輩方と知識・経験の差を感じます。その差を埋めるには、どうしたらよいか考え、一生懸命取り組んでいるところでした。そして、私が学んだことを次の世代に伝えていかなければならないとも思っています」と、尾瀬の先輩方の背中を追い続ける思いを話してくれました。そして、話が尾瀬での防災体制に及びました。「昭和58年、見晴キャンプ場で、台風による倒木事故が発生し、3名の方が亡くなりました。私は、その事故をきっかけに、防災体制の充実が必要だと感じ、防災関係者との情報の共有や連携を図ってきました」と、二度と悲惨な事故は起こしたくないという橋さん。

山

最後に、尾瀬を訪れる方々に伝えたいことを伺いました。

「尾瀬ヶ原や花の美しさを感じてくれることも貴重で大切なことです。山に登る達成感や苦しさを味わ

ってほしいと思います。山に登ることを目標にし、それを成し遂げるために努力や工夫することは楽しいことです。私は、そんな人たちを応援したいです」

山に楽しく登るために、ケガや病気には気をつけなければならぬと話す橋さんは、シーズンオフの現在も、日々のウォーキングや近郊の山登りなどを通じて体調管理をされているそうです。



▲尾瀬について楽しく語る橋さん

弥四郎小屋

（檜枝岐村字燧ヶ岳1）

- 問合わせ先
027-221-4122
- 宿泊料金
1泊2食 8,400円
- 営業期間(例年)
5月1日～10月中旬
- URL
<http://www.orahoo.com/yashiro/>

第10回尾瀬フォーラムを

開催しました

尾瀬国立公園の自然保護の精神と適正利用を推進し、「みんなの尾瀬をみんなで考える」ために、平成20年12月19日(金)に第10回尾瀬フォーラムを高崎シティギャラリーで開催しました。

今回の尾瀬フォーラムでは、当財団スタッフの根岸理佳子が「今シーズンの尾瀬を振り返って」というテーマでミニレクチャーを行い、今シーズンの尾瀬のトピックス、花の開花状況、尾瀬に棲む動物の状況などを報告し、新たに尾瀬国立公園に編入された田代・帝釈山や会津駒ヶ岳の様子も説明しました。このミニレクチャーを通じ、参加した方も平成20年シーズンのそれぞれの尾瀬の想い出に浸りながら、新しい尾瀬の魅力を発見できなかったのではないだろうか。

講演会では、フラワーエコロジストの田中肇先生に「尾瀬の花のふしぎと魅力を探る」と題してお話をいただきました。尾瀬に咲く花々を季節ごとに紹介していただき、それぞれの花が特徴的な形や色などを持っている理由を、ユーモアを交え楽しくお話していただきました。特に、興味深かった花は、ミスバシヨウ。田中先生曰く、ミスバシヨウは「スーパード植物」であり、繁殖を続けるためにいくつもの工夫をしている植物である

ということですが(ミスバシヨウの特徴については、「はるかな尾瀬vol.5」を参照)。田中先生のお話を通じ、尾瀬の花がいかに工夫して受粉を行っているから生育しているかという、まさに尾瀬の花の不思議を解き明かすことで、花と昆虫の結びつきを知り、そして、それらの生物が生きている尾瀬の自然の貴重さを改めて感じる事ができたことと思います。

今後も尾瀬保護財団では、様々な機会を通じ、自然保護の理念を広く知っていただくと共に、尾瀬の自然環境への理解を深め、魅力を発信する活動を行ってまいります。



▲田中先生の講演会の様子

冬期調査を実施しました

冬の間閉鎖されている山の鼻ビジターセンターなどの施設を点検するため、平成20年12月5日から2日をかけ、冬期調査を実施しました。

鳩待峠から入山し、尾瀬ヶ原に到着すると、一面の銀世界。雪をまとった至仏山と燧ヶ岳が勇ましくそびえ、冬の尾瀬の厳しさが五感に伝わってきました。

調査は、山の鼻ビジターセンター、山の鼻公眾トイレ、原の川上川橋などの施設や気象観測機器が積雪等の影響を受けていないかどうかの点検作業が中心です。これらの施設に関しては、ビジターセンター職員が昨年11月に下山するときに、念入りな冬支度を行っていることもあり、大きな問題はありませんでした。

3月中旬には除雪作業を行い、シーズンを迎えるための準備が本格的に始まります。



▲調査の様子

平成21年シーズンの 尾瀬についての お知らせ

登山道

1 田代山湿原
田代山湿原を周遊する木道は、一部単線になっています。登山者のすれ違いの際の湿原への踏み込みをなくすため、「反時計回りの一方通行」で利用してください。

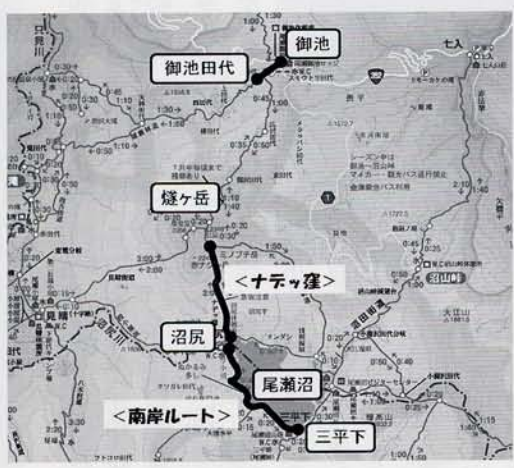


2 田代山避難小屋のトイレは老朽化が著しく、利用はお勧めできません。

3 ナテツ窪登山道
ナテツ窪登山道は、管理者不在のため、登山道荒廃が著しく、利用に当たっては注意してください。

4 尾瀬沼南岸ルート
尾瀬沼南岸ルートは一部木道がなく、融雪期や悪天候時は転倒事故が多いため、歩行には十分注意して下さい。

5 御池田代の木道のバリアフリー化
福島県側の御池駐車場から御池田代までの木道がバリアフリー化されています。尾瀬沼よりも雪解けが早く、周りに残雪が残った中に咲くミスバシヨウやリュウキンカは一見の価値があります。この他にも、大清水湿原（片品村）、ミニ尾瀬公園（檜枝岐村）がバリアフリー区間となっています。



6 小沢平公衆トイレ
小沢平登山口にある公衆トイレは老朽化により撤去される予定です。撤去後は、御池又は尾瀬口近くの公衆トイレをご利用ください。

至仏山

至仏山には、植生保護及び安全上の観点より様々なルールを設けています。皆さんで守りながら注意して利用してください。（詳細は、同封の「至仏山入山の皆様へ」をご覧ください。）

交通規制

交通規制は、鳩待峠・沼山峠とも平成20年度とほぼ同様の内容です。（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）

尾瀬内休憩所関係

沼尻そば屋が閉店となりました。沼尻トイレは、引き続き利用できます。

ビジターセンター開所

- 山の鼻ビジターセンター
5月10日（日）【予定】
- 尾瀬沼ビジターセンター
5月1日（金）【予定】

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●第13回尾瀬ボランティア総会が

開催されました

2月10日(火)に群馬県市町村会館で、第13回尾瀬ボランティア総会が開催され、ボランティア65名、事務局から8名が参加しました。

片品山岳ガイド協会の松浦和男会長にご講演いただきましたが、初めて見る写真やお話から、昔の尾瀬や尾瀬の麓で生活する人たちの様子をうかがい知ることができ、参加者も熱心に聞き入っていました。また松浦会長さんから、当日の参加者で最高齢の吉川先(よしかわ)さんと、最も遠方からの参加者の安斎敏男(やすざい)さんにプレゼントをいただきました。

総会では、新潟県の白島達彦(しろしま)さんを議長に、今年度の活動状況の報告や来年度の活動計画について事務局から説明の後、皆さんからご意見やご要望をいただき、活発な総会となりました。

総会終了後は、同会館1階の「レストラン」がみついで交流会が開催されました。事務局職員も加わって飲んだり食べたりしながらわきあいあいと情報交換、意見交換を行い、大変盛り上がりしました。

平成21年シーズンも、皆さんが安全に楽しく



▲ボランティア総会の様子



▲昔の尾瀬などについて語る松浦さん

活発に活動できるよう、活動を支援していきたく
と思いますので、よろしくお願ひいたします。

「尾瀬カードをご存知ですか？」

尾瀬カードは信販会社が当財団と提携し、発行されている「クレジットカード」の名称です。



オリエンコーポレーション



セントラルファイナンス

このカードを利用された場合、利用額の0.5%相当額がカード会社から当財団へ寄付され、尾瀬の自然を守るための活動に使われます。

加入ご希望の方は、各クレジット会社あるいは尾瀬保護財団「尾瀬カード」担当までお問い合わせください。

★尾瀬ワンポイントチェック★

○登山靴のソール(靴底)

剥がれに注意!

昨シーズン中、靴底の素材劣化による突然のソール剥がれが、多数発生しました。ご愛用の靴にソール周辺のひび割れや、破片の剥がれ落ち等の、ソール剥がれの危険性がないかご確認ください。





寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）に御来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者の御紹介

※五十音順、敬称略

株式会社群馬銀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部として152万円余りを御寄付いただきました(2008年6月9日)。昨年に続き、今回が2回目の御寄付となります。

寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

DIAMアセットマネジメント株式会社

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部として443万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が2回目の御寄付となります。

寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

株式会社第四銀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部として115万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が2回目の御寄付となります。

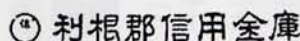
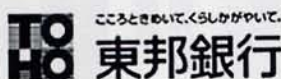
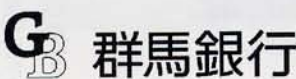
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

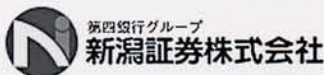
株式会社東邦銀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部として137万円余りを御寄付いただきました(2008年6月6日)。昨年に続き、今回が2回目の御寄付となります。

利根郡信用金庫

尾瀬国立公園誕生記念定期預金「尾瀬のなかま」より284万円余りを御寄付いただきました。(2008年5月2日) 寄付者からのメッセージ：今回の寄付金が尾瀬の優れた自然環境の保全に有効に活用されることを期待しております。お預け入れいただいた多くのお客様におかれましては、地域の自然環境保護に対し、ご理解、ご支援いただきまして誠にありがとうございました。





新潟証券株式会社

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として37万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が2回目の御寄付となります。

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



サンダース・ペリー化粧品製造元 株式会社ネイチャーズウェイ

化粧品1本につき3円を積み立ててきた基金より100万円の御寄付をいただきました。(2008年5月19日)

寄付者からのメッセージ：当社は創業35周年を向かえました。「3円から始まる環境保護活動」として、はじめは小さな一歩ですが私たちの活動を見守っていただいている多くのお客様のご支持を得て、大きな活動に育てていきたいと願っています。

協賛寄付者の御紹介

※五十音順、敬称略

尾瀬山小屋組合

平成10年より尾瀬山小屋組合加盟の山小屋・休憩所に募金箱を設置し、そこに入れられた募金をシーズン終了後に取りまとめて御寄付いただいております。今回は24万円余りを御寄付いただき、累計額は485万円余となりました。(2008年12月12日)

共和工業株式会社

尾瀬保護財団の活動に賛同いただき、今回を含め3年間、毎年10万円の御寄付の申込みをいただきました。(新潟県三条市 2008年5月22日)

群馬県ホンダ会

群馬県下ホンダカーズ・ディーラー25社からなる群馬県ホンダ会様より、36万2千円の御寄付をいただきました(2008年10月31日)。これは、「SaveOze」と名前の付けられたリボンマグネット（マグネット素材のステッカーで車等に貼り付ける）を群馬県下の販売店で1年間販売するにあたってその売上金の一部を前もって寄付されたものです。

社団法人日本損害保険代理業協会

尾瀬国立公園記念式典とPRイベントで使ってほしいということで100万円の御寄付をいただきました(2007年9月18日)。また、地球環境保護活動の一環として設立されたグリーン基金より尾瀬の自然保護の支援として平成20年度から5年間、毎年20万円のご寄付をいただくことになりました。(2008年6月27日)

株式会社 ロッテ

平成13年より毎年20万円の御寄付をいただいております。今年も御寄付をいただきました。(2008年2月29日)

その他の寄付

前号でのご紹介に加え、株式会社ジェイティービーサンアンドサン様、株式会社ビジョン・ファクトリー様からも御寄付をいただきました。ありがとうございました。

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。



年会費

- 個人会員.....1口 2,000円
- ユース会員(3月31日現在満22歳以下).....1口 1,500円
- 家族会員(個人会員と同居の家族).....1口 1,500円
- 賛助会員(団体・法人).....1口 10,000円

☆尾瀬内山小屋の宿泊割引について

長年に渡り、尾瀬山小屋組合様、尾瀬戸倉旅館組合様、尾瀬松枝岐旅館組合様、民宿組合様のご協力により、ご好評頂いてきました尾瀬および周辺宿泊割引ですが、別途、友の会の更新の際のお知らせでもご案内している通り、

平成21年度より尾瀬山小屋組合様加盟の山小屋につきまして宿泊割引が無くなることとなりました。

非常に残念ではありますが、会員の皆様には今後も友の会のご支援をお願いいたします。

なお、尾瀬戸倉、松枝岐村の周辺宿泊につきましては、引き続き割引を行っていただける予定です。

☆友の会の会員期間の見直しについて

現行、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる会員期間で皆様にご加入いただいておりますが、平成21年度より加入あるいは更新から1年単位の会員期間とし、尾瀬のシーズンをフルに楽しんでいただこうと予定しております。

新しい会員期間への変更につきましては、詳細が決まり次第、別途、お知らせいたします。

編集後記

先日、尾瀬戸倉スキー場に行きました。スキー場付近の天候は良かったのですが、尾瀬ヶ原方面の厚い雪雲は、尾瀬の厳しい冬を感じさせるものでした。冬の尾瀬は、まさに、はるかな尾瀬。シーズンの幕開けが待ち遠しいです。

機関誌「はるかな尾瀬」は、今年度の最後の号になりました。皆様を楽しみながら、尾瀬への理解を深めていただけるように、よりよい機関誌を目指していきたいと考えていますので、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。(小)

みんなの尾瀬を

みんなで守り

みんなで楽しむ

尾瀬のみんな 尾瀬管理委員会